

#8. Cochran の Q 検定 (JMP 15 新機能)

「JMP 15」では、[多重対応分析]の中で Cochran の Q 検定が実行できるようになりました。CATA 法で評価した際、評価項目間でチェックされた度数の差を検定する方法として Cochran の Q 検定が用いられます。

■データの準備

次のようなデータを用意しておきます。必ず個人を特定する「パネリスト」に相当する列と、評価項目(名義尺度)の列が必要になります。

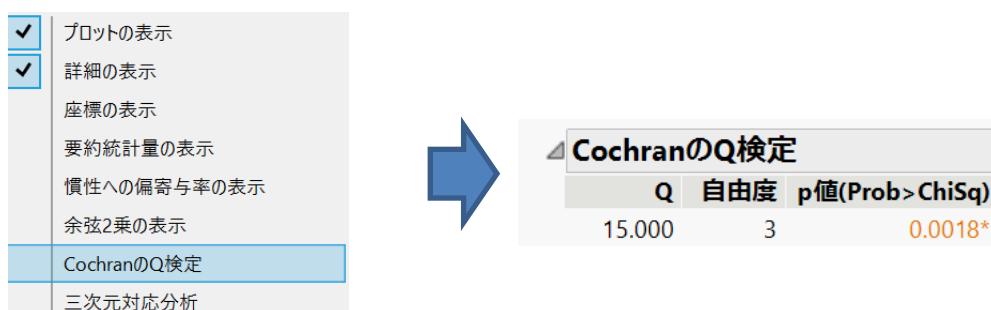
	パネリスト	評価項目1	評価項目2	評価項目3	評価項目4	
1	1	0	0	0	0	
2	2	0	0	0	0	
3	3	0	0	0	0	
4	4	0	0	1	0	
5	5	0	1	1	0	
6	6	0	1	1	0	
7	7	0	1	1	0	
8	8	1	1	1	0	
9	9	1	1	1	0	
10	10	1	1	1	0	
すべての行	10					
選択されている行	0					

■操作:Cochran の Q 検定

[分析] > [多変量] > [多重対応分析] を選択し、次のように評価項目に相当する列を [Y,目的変数] に、パネリストに相当する列を [X, 説明変数] に指定します。



レポート「多重対応分析」の左上にある赤い三角ボタンから、[Cochran の Q 検定] を選択します。



レポートウィンドウ下側に「Cochran の Q 検定」のレポートが追加されます。